

教育課程編成委員会
平成 30 年度 第 2 回委員会 議事録

1. 日時および場所

日時：平成 31 年 2 月 12 日(火) 18:00～20:30

場所：ガーデンシティクラブ大阪

2. 出席者

山本剛、東泰紀、佐藤栄一、田中義久、西濱浩次、小松原学、大上哲男、辻裕樹、
村橋昭洋、本田昌宏、竹中徹郎、小島章、瀧上郁織、村松雄一郎、森本和真、大槻憲章、
山下裕貴、堤下隆司、谷川博康、増田和浩、荒木伸輔、見邨佳朗、鍵谷啓太、釜友知與子、
樋下昌俊、野瀬孝男、中安哲男、明石祥子 以上 28 名

3. 配布資料

資料 1-1：平成 30 年度第 2 回委員会 議事次第

資料 1-2：委員一覧

資料 1-3：平成 30 年度第 1 回委員会 議事録

4. 議事録

(1) 開会挨拶

山下理事長より開会の挨拶に続き、学校の近況についての報告があった。

堤下校長より本年度卒業設計の審査協力に対する謝辞と、創立 110 周年記念ロゴマーク、
記念事業についての現況報告を行った。

(2) 議事内容説明（資料 1-1）（資料 1-2）

堤下校長より議事内容の進行についての説明を行った。

- 1) 平成 30 年度全学科課程修了報告
- 2) 全体討議

(3) 議事

堤下校長より発議し、各学科の科長・副科長より今年度の学修概要と成果について報告
を行った。

1) 平成 30 年度全学科課程修了報告

■建築学科（昼・夜・デュアルシステム科）、増田委員より報告

建築を設計から施工までトータルに学ぶという内容で展開している。昨年から取り組んでいる積算士補の資格試験にチャレンジし合格率は約 70%であった。デザインの得意な学生による設計塾や BIM 講習を開催した。就職を視野に入れ、また、将来の建築士等の試験の予行練習として、宅地建物取引士、施工管理技士、福祉住環境コーディネーターなどの資格対策を行った。卒業設計では基本設計・意匠設計・構造・木造・BIM デザイン・施工管理・景観まちづくりと計 7 コースを設けることで学生の適性に合った選択を可能にし、多くの力作が出された。

■CG デザイン学科、見邨委員より報告

二次元の CAD から BIM へ、さらにパソコンのスペックも向上させ動画で伝えるための取り組みを実施し職業を意識した実践教育と位置づけた。便利な技術ではある反面、考えることを怠らないようアナログ的なものの考え方の養成にパス検定取得を通して取り組んでいる。さらに 2 年生の進路においては 2 名が大学編入も果たし、さらなる学びの中で他者との差別化を実現してくれるものと期待している。

■空間デザイン学科、鍵谷委員より報告

各学年 2 クラスで構成しており、次年度は学生数が増加する見込みである。学生が主体的に学び、「考える・つくる・つたえる」の 3 つの力を養成する教育を軸に座学・演習を連携させつつ取り組んでいる。希望進路の分野が多岐にわたっていることから様々な業界からプロを招聘した授業を行うなどの取り組みを行なった。また資格取得としては将来の建築士以外に商業施設士補、インテリア設計士、パス検定への取り組みを行っており、加えてインテリアデザイン技能検定についても取得教育を検討している。

■専科 2 級建築士科、釜友委員より報告

専科二級建築士合格率は 81%。高合格率（昨年とほぼ同じ）となった。本年度の製図講師体制を変更し、新たに 4 名の講師を追加した。2 クラスに分け、1 クラスに 2 名ずつ製図講師を配置した。新しい 4 名の講師に予想問題作成を依頼し、昨年より課題数を多くバリエーションも豊富に実施することができた。また、多くの講師に添削してもらうことで、エスキス力や作図力の強化につながった。12/15 に首都圏、東海エリアの学校と本校で 3 校合同意見交換会を行った。H30 年度の二級建築士試験結果について報告した。各校とも学生の学習意欲保持に関する取組を行っており、学校間を越えた意見交換がなされた。

■住環境リノベーション学科、樋下委員より報告

現場管理（安全・品質・工程・原価）に必要な知識を学ぶと共に、卒業後に受験可能な

2級建築士の資格取得のカリキュラムを組んでいる。また在学中に受験する2級建築施工管理技術検定（学科試験）の合格率100%を目標にしている。今年度は目標到達とはならなかったが引き続き100%を目指していく。1年生は、富士教育訓練センターでの研修、2年生は大工技能士3級取得対策を実施した。ワークショップの授業では、より実践に近い内容を取り入れた授業を継続して行きたい。危険作業や、高所作業を伴う実習がある中、1年間大きな事故・怪我なく無事に終えることができ、次年度も継続して行きたい。

■土木工学科・建設エンジニア学科、野瀬委員より報告

進路について土木工学科は大学編入1名、他全員が就職内定、建設エンジニア学科も公務員1名を含んで全員就職が内定した。1年生はインターンシップにほぼ全員が参加し、進路指導に際しミスマッチが生じないように指導して行きたい。資格に関しては2級土木施工管理技術検定学科試験に36名合格し、内4名は実地にも合格した。その他、小型車両系建設機械・職長安全衛生責任者・足場特別教育等を多数の学生が修了した。次年度からはビジネス能力検定も受験させ、またICTを駆使して建設現場の生産性向上を図れる内容も盛り込みたい。

■ガーデンデザイン学科、中安委員より報告

学科として活動目標を3つ掲げて教育を行なった。

1. 職業としての造園が理解できるよう「ものづくり」の工程に沿って各科目をできるかぎり線で結ぶこと。
2. 通常授業の枠に収まり切らない取り組みの役割分担とスケジュール調整。
3. 学ぶ2年間の最終到達点を定める。

そのために科目の連携、教員間のリアルタイムな情報共有は不可欠であった。

1年生は全員が夏休みにインターンシップを経験、この春休み2回目に挑戦している学生もおり、2年生は全員就職内定した。

課題としては全学生に公平な教育指導ができたか？全学生にやる気を起こさせることができたか？枠外取組がアルバイトや通常授業に及ぼす影響への配慮ができていたか？等があり次年度にむけて改善に努めたい。今後については、立体都市公園制度について研修のうえ、授業に組み込みを検討している。

2) 全体討議

各テーブルに分かれて全体討議を行った。各委員からは以下のような意見が出された。

【資質教育についての意見】

- 早期退職してしまう若者が多い。せめて建築の楽しみを味わえるところまで頑張ってもらいたい。粘り強さを培うことが大切。

- 学生は個々にエネルギーを秘めており、その発揮先をしっかりと見極め指南しないとイケない。
- 失敗することを怖がらず、次につなげる指導が大切である。
- 多様な人との出会いが大切で、自分にはないものを得ることができる。
- 学生対応は一様でなく個々により変化させることが大切。

【ICT教育についての意見】

- 建築士講習等、ネット動画による遠隔授業が出来れば可能性が広がるのではないか。
- ICTに関しては学校で指導する場合、各ソフトの導入が難しい部分もあるかと思われるので、もう少し動向をみることも必要と思われる。
- ドローンの測量においても基点の設置などの測量は必要となるので、測量の基礎は必要となる。
- データを入力すると成果品が出来上がるが、そのプロセスと入力したデータによってどのような成果が出るのかを予測し、出た成果が間違っていないかを確認できる知識が必要。
- TS 出来形や電子黒板の活用は施工管理で必要な部分と思われる。

【キャリア教育についての意見】

- ガーデンデザイン学科の卒業設計が、地域と密着した大変な力作であることを感じたとともに、緑地規定など各自治体の都市計画規定も参照されてはどうか。
- 積算や設備など、建築でもマイナーな分野へも学生の目を向けたい。それぞれの業務の重要さや働きがいアピールしていきたい。

【その他、本校教育についての意見】

- BIMの普及によって設計に掛ける時間が短縮されるほど、その内容の薄さが気になる。背景をしっかりと学ぶ、特に建築計画と建築歴史に関する実地も含めた深い学びが必要である。
- 2025年大阪万博開催が決定したこのタイミングにおいて、万博協会への関係構築と、例えば官学での連携教育などを模索してはどうか。

(4) 山本委員より閉会の挨拶

山本委員より閉会のご挨拶を頂き、散会。

(記録まとめ・文責：鍵谷啓太)